

## 行政報告

### (令和7年 第2回 議会定例会)

皆様、おはようございます。

令和7年 第2回 議会定例会を召集申し上げたところ、議員各位には、何かとお忙しい中、ご出席を賜り、厚くお礼を申し上げます。

定例会の開会に当たり、ご挨拶を兼ね、行政諸般の報告をさせていただき、議員各位並びに、町民の皆様のご理解と、ご協力をお願い申し上げます。

さて、町ではこのほど、新しい学校教育の環境整備に向け、住民説明会を町内3カ所で、また、保護者向け説明会を、各学校区がっこうくで、それぞれ1回、計5回を実施し、今後の方向性について、町民の皆様に説明してまいりました。

加えて、パブリックコメント等を実施し、広くご意見を伺うこととしております。その中で、いただいた、ご意見を踏まえながら、事業を着実に、推進していくため、今回、その一環としまして、熱川中学校、隣接地の測量設計業務に係る

委託料を、補正予算に計上しておりますので、ご審議のほど、  
よろしくお願いいたします。

学校統合につきましては、今後、精査すべき課題の解決が  
必要となつてまいります。議会並びに町民の皆様からの、  
ご意見を賜りながら、当町にふさわしい学校の在り方を、模  
索してまいりますので、ご理解・ご協力を、よろしく、願  
いいたします。

ここからは、それぞれ分野ごとに、行政諸般の報告をいた  
します。

はじめに、地域公共交通関係についてですが、「ノッカル  
ひがしいず」は、昨年12月から、稲取地区の運行、及び、  
エリア間移動を、開始いたしました。これにより、月平均、  
20運行・23人程度の利用に、留まっていたものが、令和  
7年3月には103運行・164人、翌4月には87運行・  
146人の利用へと、順調に実績を伸ばしてまいりました。

また、6月2日から13日まで、「ナイトノッカル」の実  
証事業を実施しております。夜間20時から、23時までの

運行、1時間前までの当日予約、現金での精算が可能であり、利便性を高めた内容で行いました。

本年度は「ノッカルひがしいず」以外にも、巡回型のグリーン・スロー・モビリティの、実証実験を実施する予定です。今後も、地域交通の利便性を、さらに高め、高齢者が運転免許を返納しても、安心して移動できる環境を整え、観光客や移住者を含め、すべての方が、快適に移動できる地域づくりを進めてまいります。

次に、地域おこし協力隊関係についてですが、現在、当町では、9名の協力隊に、ご活躍いただいております。しかしながら、依然として、様々な分野での人材不足が、大きな課題となっており、今後も、積極的な採用を進めて、地域の活性化に、取り組んでまいりたいと考えております。

白田片瀬地区、コンパクトシティ関係では、昨年度、白田片瀬地区において、計5回の検討会議を開催いたしました。人口減少が進み、空き家は今後、益々、増加すると見込まれることから、コンパクトな、まちづくりを目指し、地域の力

を活かしなが<sup>い</sup>ら、将来像、ゾーニング等について、検討を行ってまいりました。

会議の成果として、取りまとめたレポートは、町のホームページに掲載し、周知に努めており、今後、グランドデザイン等を作成する際は、このレポートを参考資料として、活用してまいります。

「よりみち135」の関係につきましては、3月29日、30日及び5月18日に、バザーイベント「よりみちノミのいち」を開催し、売上は合計8万5千600円に上<sup>のほ</sup>りました。ご協力いただきました皆様には、心より感謝申し上げます。今後、同施設の整備を図っていく上で、備品購入等の経費に充<sup>あ</sup>ててまいります。

また、5月のイベントでは、おもちゃの交換会、提案ワークショップ等も、実施いたしました。今後の工事に向けて、町民の皆様との関わりを深め、「よりみち135」が、親しまれる施設となるよう、取り組んでまいります。

次に、税務関係ですが、令和6年度、個人住民税は、納税者、及び、控除対象配偶者<sup>こうじょ</sup>を含めた、扶養親族1人につき、個人住民税、所得割1万円の、定額減税を、実施した影響による減に加え、固定資産税は、3年に一度の、評価替えの、基準年度と、なっていた影響により、町税全体の調定額<sup>ちょうていがく</sup>が、大幅減となり、町税全体の収入額も、減少いたしました。

本年度は、令和6年度に実施いたしました、定額減税補足<sup>ていがくげんぜいほそく</sup>給付金<sup>きゅうふきん</sup>により、不足額が生じる方<sup>かた</sup>について、不足額の給付を実施する準備をしており、今回の補正予算に、計上しております。また、令和6年度に条例改正をいたしました、入湯税について、令和7年3月1日分から、1人1日300円での賦課<sup>ふか</sup>を始めております。

引き続き、自主財源である町税の確保と、納税秩序の維持に努めるとともに、専門的知識及び、技能の習得を通じて、職員の資質向上を図り、適切かつ公平な、賦課徴収事務<sup>ふかちょうしゅう</sup>の、執行<sup>しっこう</sup>に努めてまいります。

次に住民福祉関係ですが、去る5月25日及び6月1日に、環境美化推進運動の一環として「町内一斉のクリーン作戦」

を実施し、多くの町民の皆様に、ご参加いただいた中で、快適で住みよい環境の保全に、努めていただきました。町民並びに関係各位のご協力に、感謝申し上げます。引き続き、身近な取り組みとして、ごみの減量化、再利用、再資源化に、ご協力いただきますようお願いいたします。

次に、健康づくり関係では、4月より、65歳から5歳<sup>きざ</sup>刻みの年齢の方を対象とした、<sup>たいじょうほうしん</sup>帯状疱疹定期予防接種が始まりました。対象となる方には、4月に通知を送付いたしましたので、この機会を<sup>の</sup>逃さず、<sup>すす</sup>受診されるようお勧めいたします。

特定健康診査等につきましては、4月に対象となる方へ、ご案内したところ、5月30日現在、1千264人の方から、予約がありました。6月8日から12月4日までの期間に、27日間の日程により、「東伊豆町役場」、「保健福祉センター」の会場に加え、今年度は「奈良本公民館」においても、集団健診を行いますので、是非ご利用ください。

また、本年度より、5歳児健診を実施いたします。

就学前のお子さんの発達や、健康状態を確認し、必要な支援につなげることを、目的としております。保健福祉センターを会場とし、小児科医や発達の専門職の方々による、身体発育状況や言語、社会性の発達確認を行い、保護者支援や、関係機関との連携を強化してまいります。

そのほか、「健康増進」、「介護予防」の事業等につきましても、5月より順次、各教室を開催しておりますので、事業への参加により、望ましい生活習慣・知識を身につけていただければと思います。

次に観光関係ですが、令和6年度の入湯客数は、67万9千855人で、前年対比6.6パーセント、4万2千213人の増となりました。インバウンドも含め、町を訪れる方が増えていると実感しております。観光関係者の皆様の努力に感謝するとともに、町として、今後も様々な、「まちづくり政策」を推進し、更なる来遊者の増加に努めてまいります。

さて、町内において開催されたイベント関係ですが、議会

第1回臨時会でもご紹介いたしました「<sup>はるいろしよくよいち</sup>春色食夜市」には、5千200人もの来訪者があり、大盛況となりました。今後、継続的にお客様を楽しませ、年間を通じて切れ目のない誘客を図れるよう「熱川に九份が灯る。まちづくり協議会」が、中心となり、進めていくとのことですので、町といたしましても、できる範囲において、可能な支援をしてまいる所存でおります。

稲取細野高原にて実施された「山菜狩り」は、入山者数が3千16人で、昨年度比33.6パーセントの増となりました。天候にも恵まれたようですが、素晴らしい自然環境及び景色を求め、来遊される方も、多かったとのことですので、癒<sup>いや</sup>しの空間を楽しむお客様が、今後も、増えていくことを望んでおります。

これからも「細野高原みらい協議会」が中心となり、観光活用及び環境保全、教育など、様々な面での検討を、願います。



4月18日から20日までの、3日間で開催された「レインボー・ディスコ・クラブ」は、天候にも恵まれ、延べ9千人もの、来訪者があったと聞いております。本年も、世界的に知名度のあるアーティストを招くなど、大変、魅力のある音楽イベントとして定着しております。

町の宿泊施設を、利用していただく方も大変多く、宿泊事業者からも、感謝されるイベントになっております。また、お子様を含め、家族連れで参加する方も多く、音楽とともにキャンプを楽しんでいる様子も、印象的でありました。今後とも町民の皆様から、御理解をいただきつつ、継続されることを願っております。

大川地区では、大川竹ヶ沢公園での「ホテル観賞の夕べ」並びに、奈良本地区では、奈良本けやき公園での「ホテル観賞会」が、それぞれ実施され、数多くの来訪者で賑わいました。近年、海外の方が増えてきているとのことですので、これまで以上に、人気が高まり、注目を集めるイベントとなることを期待しております。

5月6日に計画されておりました「第69回・町民ゴルフ大会」は、雨天のため残念ながら中止となりました。第70回大会は、11月16日の開催が決まっているとのことです。町民の皆様には、多数の参加により、本大会を盛り上げていただければと期待しております。

そのほか、キンメマラソンには、過去最多となる3千30人の方にエントリーいただき、さらには「日本のランニング大会100選」に選ばれるなど、全国的な大会に育ってきたと感じております。

昨年に引き続き、「台北駐日経済文化代表所・横浜分所」の「張淑玲」ちやうしゆくれい 所長にご参加いただき、私も走らせていただきましたが、沿道の皆様から、とても暖かい声援をいただき、感動いたしました。

また、台湾からは、昨年より交流のある、田中マラソンからの協賛に加え、新たに台南市たいなんからの参加、出店もいただき、益々交流が盛んになっております。大会がさらにグローバルとなり、熱を帯びていく未来が、見えるような気がしております。

大会をお手伝いいただいた、各区の皆様をはじめ、多くの  
方々の協力のもと、実現している大会ですので、皆様方に心  
より感謝を申し上げます。

次に、商工関係ですが、継続して実施しております「リフ  
ォーム補助金」につきましては、令和6年度も多くの方から  
ご利用いただき、補助額は1千183万5千円、工事費全体  
では9千4百22万2千円となり、個人のリフォーム需要を  
受けて、町内リフォーム関連事業者への、支援ができたもの  
と認識しており、本年度も積極的に、ご活用いただければと  
望んでおります。

次に農林水産振興についてですが、農地の見える化、DX  
化の一環として、令和6年度から現在、紙ベースで管理され  
ている過去の農地申請情報の、デジタル化を進めておりま  
す。過去50年以上に渡る膨大な情報量となりますが、利便  
性向上に向けて、今後も引き続き、整備に努めてまいります。

また、現在、異常気象が常態化する中、気候変動による環  
境の変化が、農漁業にとって、深刻な問題となることが懸念

されることから、関係機関との連携や、情報共有を図ってまいりたいと考えております。

次に、ふるさと納税関係についてですが、令和6年度の、寄附額は約5億5千500万円となり、前年対比では、5千400万円の減となりました。

寄付額減少の原因は、全国的な物価高騰の影響により、米や日用品などを返礼品とする自治体に寄附額が増えたこと、令和5年10月のルール改正による、駆け込み需要の反動が出たことなどによると分析しております。

しかしながら、寄附件数は増加していること、令和4年度との比較では大幅に増加していることなどから、新規の寄附者を獲得する方策は、成功していると考えており、引き続き、新たな返礼品の掘り起こし及び、リピーター対策に力を注いでまいりたいと考えております。

次に、建設整備関係ですが、令和4年4月から通行止めとしております、白田川橋の今後について、5月13日に町民の皆様への報告会を開催し、橋の架け替えはせず、単純撤去

とすることを説明いたしました。今年度は、橋台を除く橋の撤去を予定しておりますので、地域の皆様のご協力をお願いいたします。

地籍調査事業についてですが、賀茂地域1市5町と静岡県で共同実施に関する協定を結び、平成29年度より実施しており、今年度は洪水浸水想定区域を含む、白田地区の旧もりつねいん森恒医院から、稲取片瀬線までの白田川右岸、片瀬地区の稲取片瀬線から、湯ヶ岡赤川線までの白田川左岸の「白田Ⅱ・Ⅲ地区」、「片瀬Ⅲ・Ⅳ地区」の0.22平方キロメートルについて、官民すべてのひっかい筆界を確認するため、業務委託する予定であります。対象地区の土地所有者におかれましては、境界立会等ご協力をお願いいたします。

次に、防災関係についてですが、4月24日早朝に、年度当初の職員動員、情報伝達訓練を実施し、30分以内に参集できる職員数の検証を行いました。対象となる職員133名中、97名、72.9%の参集を確認しましたので、今後の計画策定等の参考として活用してまいります。

今月は、土砂災害防止月間となっております。6月1日には、入谷区町内会をモデル地区として、下田土木事務所職員による土砂災害、防止講習会を実施したほか、各地区の自主防災会役員を中心に、防災委員、消防団員及び地区住民による土砂災害危険地域の見回り、危険区域内に居住する、住民への啓発・啓蒙活動を行いました。

昨年に発生した<sup>おくの</sup>奥能登豪雨災害をはじめ、全国各地で大規模な水害及び土砂災害が発生しておりますので、土砂災害危険地域にお住いの皆様におかれましては、<sup>へいじ</sup>平時から食料品等の備蓄、避難方法、避難経路及び避難場所の再確認、大雨が想定される場合は、事前防衛を含めた早期避難行動をお願いいたします。

また、町では気象条件に関わらず、屋内でも同報無線の音声を聴くことができる、スマートホン用のアプリケーションとして、「コスモキャスト」を無償で提供しております。さらに、町からのメールなどの情報をテレビに表示、音声で着信を伝える、テレビ・プッシュ・システムの導入について、

補助制度を設けておりますので、それぞれの家庭環境、状況に合わせ、導入を検討いただきますよう、お願いいたします。

消防団関係では、4月6日に入団式を行い、再入団の団員を含め、新たに12名の消防団員が、加入することとなりました。3月をもって、退団された団員の皆様には、長期間、消防団活動を通じ、地域貢献に寄与していただきましたこと、心からお礼を申し上げます。引き続き、機能別消防団員へのご登録をいただき、地域のために、ご活躍いただけることを願っております。

消防団員の皆様には、訓練等を通じ、消防団本部、各分団、消防団員一人ひとりの技能向上、体制強化に努めていただくとともに、消防署との緊密な連携により、自然災害等を含むあらゆる災害に備えていただけるよう、お願いするものであります。

また、消防団は全国的に若年層が減少し、団員確保が難しくなっております。当町も例外ではなく、団員の確保はもとより、様々な課題解決が必要不可欠と考えております。

そこで本年度より、消防団の改革推進担当副団長1名を、新たに設け、改革推進及び、課題解決に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。町といたしましては、想定される様々な災害に備え、安心・安全なまちづくりを、さらに進め、防災・減災に努めてまいります。

交通安全関係では、4月6日から15日まで、交通事故防止の徹底を図ることを目的に、春の全国交通安全運動を実施し、4月9日には、交通指導員、消防団、PTA等のご協力をいただき、朝の街頭指導を行いました。参加いただきました関係各位には、お礼を申し上げます。

町民一人ひとりが、自らの交通安全に対する意識を高め、交通ルールの<sup>じゅんしゅ</sup>遵守と交通マナーの実践を、習慣付けていただけるよう、お願いいたします。

次に教育関係についてですが、ひがしいず幼稚園では4月に6名の新入園児を迎え、合計15名の園児により、令和7年度をスタートしました。少人数ではありますが、<sup>いねんれいじ</sup>異年齢児の関りが多く見られ、「夢中になって遊び込める子」という



目標に向かって、互いに育ちあう様子が見られております。  
また昨年、園庭に植栽した芝生も定着し、天気の良い日は、  
子供たちが裸足になり、元気に走り回っております。

本年度、稲取小学校では、19名の新入生を迎え、合計で  
150名、熱川小学校では、12名の新入生を迎え、合計で  
131名、また、稲取中学校では、26名の新入生を迎え、  
合計で104名、熱川中学校では、26名の新入生を迎え、  
合計で68名の児童・生徒により、教育活動をスタートしま  
した。それぞれの学校において、児童・生徒一人ひとりの学  
力向上及び、健やかな成長を目指すと共に、学校教育目標の  
達成に向けて、日々の教育活動に取り組んでおります。

5月19日には、稲取小学校において、6月2日には、熱  
川小学校において、それぞれ、運動会が実施され、児童たち  
が協力し合い、力いっぱい競技に臨む姿がみられました。

明るい笑顔とともに、一丸となって目標に向かう経験を通  
じて、仲間意識や達成感を味わうことができたのではないかと  
感じております。

社会教育関係では、5月18日に「高尾山ハイキング」を実施いたしました。町内在住の小学5年生以上を対象に、参加者を募集したところ、23名の申し込みがあり、参加者は、高尾山を思い思いに散策し、新緑の季節に自然を満喫しながら、健康増進及び、相互の交流を深める良い機会となったものと考えております。

こども達の郷土への理解と愛着を深める「東伊豆町ふるさと学級」は、本年度、稲取・熱川あわせて学級生79名の申し込みがあり、6月4日には大川地区において、開級式と合わせてホタル観賞を行いました。

その他、文化・生涯学習・スポーツ等の各教室及び事業につきましても、順次、スタートを切ったところでございます。これらの事業が、多くの町民の皆様の参加のもとに、活発な活動として展開され、町民相互の交流や、活性化につながることを望んでおりますので、ご興味のある方は、是非ご参加いただければと思います。

町立図書館では、6月19日から30日までの間、蔵書点<sup>ぞうしょ</sup>検作業のため、休館とさせていただきます。町民の皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

次に、水道事業関係ですが、令和6年度の水道事業会計は、3月末で出納を、閉鎖いたしました。概要といたしまして、収益面では、観光客数の増加などにより、営業収益が前年対比160万円、0.4%の増収となりました。

費用面では、動力費である電気料金や、物価の上昇などの影響により、営業費用が前年対比1千100万円、3%の増となり、経営的には非常に厳しい状況ではありますが、1千600万円の純利益を確保する事ができました。

2年連続で黒字を確保できておりますが、経常的な経費の増加に加え、今後、見込まれる浄水場の建設、施設や管路<sup>かんろ</sup>の老朽化対応なども必要であり、今後も厳しい経営状況が想定されておりますが、将来にわたり、水道事業を安定的に継続していくため、本年度、経営戦略の見直しを行います。

また、経営戦略の見直しが完了いたしましたら、水道料金等、審議会を立ち上げ、料金改定について検討を始めたいと考えておりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

本年度は、行政事務のD X化、ペーパーレス化を推進するため、4月より文書管理の電子化に取り組んでおります。

また、根拠法令等を明確化し、政令の趣旨をよく理解して、恣意的な拡大解釈のないよう、留意する観点から、3月に「東伊豆町における、随意契約ガイドライン」を策定し、例外的な契約方式である随意契約について、適正に進められるよう努めております。

引き続き、既存事務の見直しを図りつつ、事務の効率化、適正化に努めてまいります。

終わりに臨み、梅雨入りとなりましたが、町民の皆さま、並びに議員各位におかれましては、健康に十分留意をされ、来るべき夏の観光シーズンが、活気に溢れることを祈念いたしまして、行政諸般の報告とさせていただきます。